

(fax 03-3580-8434)

原子力安全・保安院長 寺坂信昭様

2011.3.30

3月16日付および19日付、27日付で、FAXを差し上げました。この私の提案の一部が採用されているようですが、何の連絡もないことに抗議します。お忙しいとは思いますが、提案を採用した以上、ご連絡ください。

なお、復水器に、泥水を入れるということですが、復水器は原子炉を構成する重要な機器です。これを泥水で汚してはいけません。原子炉の機能回復にとって重大な障害となります。

槌田敦

横浜市

fax045-

---

(fax 03-3580-8434)

原子力安全・保安院長 寺坂信昭様

2011.3.27

3月16日付および19日付で、FAXを差し上げました。この私の提案の一部が採用されているようですが、何の連絡もありません。お忙しいとは思いますが、提案を採用した以上、ご連絡ください。

槌田敦

横浜市

fax045-

3月16日付で、下記手紙(FAX)を差し上げましたが、無視されたようです。

3号建屋への放水についてですが、東京電力は「白煙」のあがったことを成果と考えているようです。しかし、これは重大な結果となることにご注意ください。

「白煙」は水蒸気ですが、その発生の原因は、過熱したウラン燃料に冷水が当たったことによると考えられます。その結果は、燃料の崩壊です。プールの底にウラン燃料が積もっていくことになり、再臨界の心配がありますので、放水は中止してください。

そのように言う理由は、スリーマイル島原発事故で、最初の燃料崩壊が給水の成功と同時に起こっています。その結果、わずかに流れていた水も閉じることになり、炉心熔融と熔融物落下になったと考えられるからです。

その代わりに、鉛を投入してください。チェルノブイリで実施されたように、燃料を熱伝導度のよい液体鉛で包むのです。これで再臨界などは防げるでしょう。鉛は1750℃で蒸発しますが、この場合プールの面積は広いので自然放熱でも十分でしょう。

過去の経験を生かすことは重要です。さらに深刻な事故にしないために、水にこだわらず、これらの方法を真剣に考えてください。

植田敦

横浜市

fax045-

1. 原子炉に海水を入れてはいけない。

理由 炉心で蒸発し、食塩が残り、炉心の中を水が流れなくなる。

2. 主蒸気止弁を開閉して、蒸気を復水器に送り、原子炉を減圧して給水する。

理由1. これにより、放射能の環境への放出を少なくできる。

2. 集めた水素を酸化できる。

3. 使用済み燃料に冷水をかけてはいけない。

使用済み燃料プールには鉛を投入し、液体窒素で冷却する。

理由 空焚きの使用済み燃料に水を掛けると、燃料は大破損し、崩れ落ちて再臨界の心配がある。

以上提案します。

元理化学研究所研究員 植田敦